

ICE-US コーヒー12月限

サマリー

10月19日終値: 125.00 セント/ポンド

今後二週間の予想レンジ: 118.00-134.00

価格目標-短期: 132.00-134.00

サプライズがあった場合: 115.00-150.00

価格目標-中長期: 150.00-170.00

アウトルック: 相場は高値から十分に下落、このあたりが当面の底値になる可能性は高い。
天候に関する不安が解消されたわけではなく、売りが一巡すれば再び騰勢が強まる。

マーケット・レビュー(10/8-10/19)

10月8日の週はブラジル生産地の天気予報に一喜一憂する展開。週初は大きく買いが先行し直近の高値を上抜けたものの、翌9日には降雨の可能性が出てきたことを受け5セント以上急落。週後半には雨の可能性が低くなったとの見方から再び高値更新を試す展開と、息の休まる間もない乱高下が続いた。翌15日の週はブラジルで本格的に雨が降るとの見通しが強まったことから売り一色の展開。週初いきなり9セント以上の大幅安、その後も雨の可能性が高まると共に売り圧力が高まり、18日には一時122セントと9月14日以来の安値まで値を下げた。

ブラジルの乾燥懸念は全て解消されたのか

ブラジルの主要生産地ミナスジェライスやサンパウロ州で、目先本格的に雨が降るとの見通しが強まったことを受け、相場はこの一週間で高値から 18 セント以上急落する展開となった。この週末は晴れのところが多いようだが、今週から月末にかけては連日のように雨の予報が出ている。それまでの上昇を考えれば、雨の予報を受け皆が一斉に手仕舞い売りを仕掛けたのも無理もないところだ。

では、実際に雨が降るとして、本当にコーヒー樹の開花に対この先今後十分な雨が降れば問題なく開花が終了する可能性が高い。特に植樹して数年以上経った樹は根も十分に張っており、今までの乾燥気候に対してもそれほどおおきなため一時は受けていないだろう。

問題は、まだ十分に根の張っていない若い樹と、9月前半の雨で既に一度開花してしまった樹の方だ。若い樹に関しては乾燥気候のダメージは相当大きく、今年度の生産が期待できないものも多く見られると聞く。全体に対する割合がそれほど多いわけではないので、深刻な問題になるわけではないだろうが、それでもある程度の影響は出るだろう。また、9月の初めの雨で既に開花したのものに関しては、その後乾燥気候が続いたことで受粉が上手くいかなかった恐れがある。生産への影響が明らかになるのはまだ少し先の話だが、これだけ長く高温乾燥気候が続いたのだから、(影響が)全くゼロと考える方がむしろ不自然だろう。

アウトルック(10/22-11/2)

目先は今の下落局面がいつ、どのあたりで一服するかに注目が集まることとなる。確かにブラジル生産地の降雨は弱気材料だが、相場は既に高値から 18 セントも下落、乾燥気候が材料になり始める 9月前半の水準よりもやや高いだけのところまで戻している。勢いに任せて更に値を下げることもあるだろうが、これ以上値下がりするという事は、単純に考えて9月前半の時点よりも生産状況が改善するということになる。いくらなんでもこうした考えには無理があるだろう。現時点では雨は予報だけで、まだ実際に十分な量が降っているわけでもない。このあたりが当面の底値になる可能性は高いのではないか。

ブラジルの開花はそろそろ中盤に差し掛かろうかという時期で、今後の天候次第でまだまだ状況は大きく左右される。今月いっぱいには予報通り雨が降ったとしても、11月以降の天気によっては再び乾燥懸念が高まることも十分に考えられる。このように目先が不透明な状況の中では、やはり不安感から買いが優勢になってくるものだ。降雨予報を受けた売りが一巡すれば、再び騰勢を強めてくるものと思われる。この先特に強気の材料が出てこないにしても、130台前半あたりまでは値を戻すことになりそうだ。